2014 9/9
No.1978
毎月第2・第4火曜日発行

政経かながわ

一般社団法人
—神奈川政経懇話会—

赤ちゃんの成長を祝い、力強く泣くことで健やかな発育を祈願する「一心泣き相撲」が８月24日、横浜市南区の太田杉山神社・横濱水天宮で行われた。130人の小さな男女の力士が「土俵入り」した。

神奈川新聞社

政経かながわ

2014 9/9 No.1978

contents

視点・点描 3
川崎宿は活性化の原動力

国　際 4
米、シリア空爆も検討
イスラム国掃討で介入強化

社　会 6
社会を変えた東海道新幹線
開業50年、工夫を重ねて進化

企業最前線 8
参入相次ぐ格安スマホ
携帯大手の料金に影響も

くらし2014 10
パタニティー・ブルー

広告珍談 12
～いまこそ広告すべき⑥
コンカツ広告を―

NNAアジア経済リポート 13

会員のページ 14
設立50周年は２年後に（その３）機関誌
会員の動き

会員のページ 15
設立50周年は２年後に（その３）機関誌

事務局だより

◇横浜定例講演会
2014年９月10日（水）
13時30分～15時
横浜ベイシェラトンホテル＆タワーズ　４階「清流」
講師は前駐中国全権大使、伊藤忠商事前会長の
丹羽　宇一郎　氏
演題は「日中関係と日本経済のこれから（仮題）」

◇横浜定例講演会
2014年10月１日（水）
14時～15時30分
横浜情報文化センター　6階「情文ホール」
講師は株式会社タニタ前代表取締役会長の　谷田　大輔氏
演題は「タニタの経営論～世界初・家庭用体脂肪計、タニタ食堂　誕生秘話を交えて（仮題）」

視点点描

川崎宿は活性化の原動力

江戸時代、東海道の宿場町としてにぎわった川崎宿の歴史や文化を紹介する「東海道かわさき宿交流館」（川崎市川崎区）が10月1日、開館1周年を迎える。東海道というビッグネームと町歩きブームなどを追い風に、入館者は8月1日、5万人を突破した。開館時は年間で3万～4万人と見込んでいただけに、関係者にとってはうれしい誤算となった。

5万人目の入館者となったのは千葉県浦安市の主婦本間佳奈子さん（40）。長男（8）、長女（4）、母親（69）の4人で訪れ幸運を射止めた。8月23日、交流館の斎藤文夫名誉館長から記念品が贈られ、「夏休みのいい思い出になりました」と笑顔を見せた。

市街地を貫く旧東海道に面して立つ交流館。建物は4階建て、総床面積約1千平方メートル。1階には奈良茶飯が評判だった旅籠「万年屋」を模した四畳半の休憩所がある。最近は羽田空港から直接、大型バスで来館するアジアなどからの外国人観光客が増えており、畳の休憩所は初めて触れる日本文化として人気があるという。

「江戸時代にタイムスリップ！」がテーマの2階は、宿場時代の川崎を展示。宿場の街並みなどが紹介されている。東海道を往来した旅人の姿で記念撮影ができる〝コスプレ〟スポット「六郷の渡し」は人気だ。3階は「江戸時代から現代へ！」がテーマ。地図と写真でたどる川崎の今昔などを見ることができる。4階は集会室。

畳敷きの休憩所。外国人観光客にも人気だ

旧道沿いには、多数の浮世絵を所蔵し無料公開している川崎・砂子の里資料館や、歌川広重の東海道五十三次の中から川崎宿など12点をシャッターの絵にした川崎信用金庫本店などがあり、一帯は川崎宿らしさが演出されている。

川崎市は川崎宿を生かした地域活性化事業に取り組む。松並木のような当時をしのぶものは残っていないが、町の活性化に歴史を生かす動きに拍車が掛かっている。

交流館は入場無料。月曜休館。問い合わせは☎044（280）7321。

（神奈川新聞社川崎総局長　小松　裕史）

コンカツ広告を――

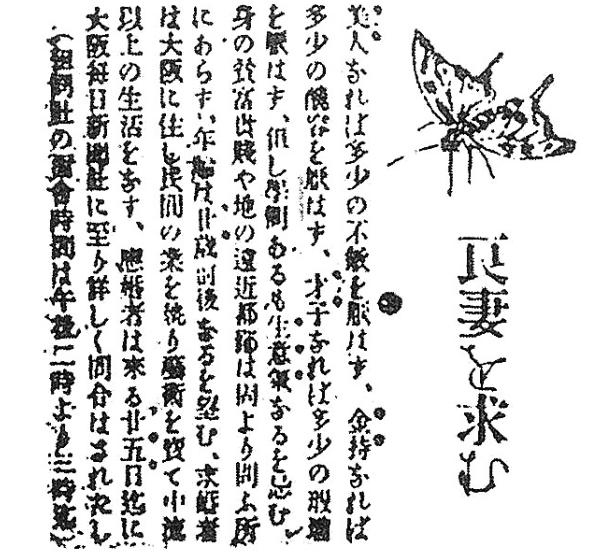
宮野　力哉

バツイチだろうと、バツニだろうと、なにごとも経験ゆたかなほうがよろしいかどうか知らないが、男も女も、コンカツばやりとか。どんな活動が効果あるのだろう。ぜったいキキメあるのは新聞広告です。広告してまでと思うなかれ、明治のころから成功例がわんさとあった。ほんの1例を

★日本初、ムコ求む広告

しあわせ願望の広告なのに漢字だらけなので、読みやすくするとこうなる。

私にはことし、16歳になる娘がいます。裁縫はもちろん、いっさいの女仕事は巧みで、となり近所の評判もよろしい。4・5年前から三味線のけいこもおこたらず、いまではみごとに弾けるようになり、めでたい酒宴にも恥をかくことはないと思います。姿といえばあたったがいいムコは見当たらず、愚妻・親類とも困り切っております。「嫁と縁を組まんと欲する諸賢は新聞を以て之を広告せよ」と、石川新聞に載ったは1881（明治14）年5月。やさしい父親は中村太郎左衛門という人。応結広告が出たかどうかは不明です。



良妻を求む

美人なれば多少の不敏を厭はず、金持なれば多少の醜容を厭はず、才子なれば多少の□□を厭はず、但し学問ある也生意気なるを忌む、身の貧富出賤や地の遠近都鄙は固より問ふ所にあらず、年齢廿五歳前後なるを望む、求婚者は大阪に住し民間の業を続り藝術を投て中流以上の生活をなす、應婚者は来る廿五日迄に大阪毎日新聞社に至り詳しく問合はされべし

（紙幅上の関合時間は午後二時より三時迄）

★ヨメ求む。こちらバツイチなり！

《先頃女房を離縁して不自由勝ゆゑ、10人並以上、目はパッチリと鼻高からず低からず、口もとやさしく色白く、声もよく通るという申し分のなさ。もはや16となったので、早く嫁入りさせようと、いろいろとか。新聞広告とはキキメ絶大であるぞよ。

★大阪のバツイチ、ヨメ求む。

90（明治23）年10月、《良妻を求む》と図が載った。《美人なれば多少の不□は厭わず、金持なれば多少の醜容を厭わず、才子なれば多少の□□を厭わず。但し学歴あるも生意気なるを忌む》。身分の高い低い、都会育ちやいなか生まれ、遠い近いも不問。20歳前後を望む。当方、大阪に住み《芸術を売て中流以上の生活を成す》。応婚者は大阪毎日新聞社に行って、詳細を聞くべし。新聞社の面会時間は午後2時から3時まで。（□は判読不能）。えらそーな文章。芸術を売るとはなにごとぞ。大阪毎日は縁談斡旋もする、親切な新聞社であった。チョウチョのイラストが不気味！

貧富を論ぜず、十七歳以上二十五歳にて嫁にならうと思ふ者は照会あれ。津・活版印刷業中尾勝三郎》。83（明治16）年1月、伊勢新聞が掲載。なんと1ヵ月後に結ばれた

（美術エッセイスト、茅ヶ崎市在住）

（図）「良妻を求む」の新聞広告＝90（明治23）年10月掲載